

# Annual Report 2025

Center for Professional Development in Nursing  
Kyoto Tachibana University

京都橘大学  
看護教育研修センター

## 年報 2025

# INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 10

認定看護師教育課程 11

キャリア開発事業 15

# 刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

奥野信行

京都橘大学看護教育研修センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行うとともに、地域に貢献する看護職者を育成すること」を目的とし、「認定看護師教育課程」と「看護キャリア開発事業」の二本柱で活動しています。

認定看護師教育課程は、2022年度より特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）として運営しており、皮膚・排泄ケア分野の認定看護師を目指す30名の研修生が学んでいます。本課程は毎年多くの看護職の方々に受験していただいております。皮膚・排泄ケア分野における教育ニーズの高さが窺えます。今後も、研修生が最適な学びの環境で成長できるよう、教育内容および教育体制のさらなる充実に努めてまいります。

看護キャリア開発事業では「たちばなSIM」と「看護倫理研修」の2つのプログラムを展開しています。

「たちばなSIM」は、本学の卒業生や共に勤務する看護職を対象としたシミュレーション教育プログラムです。2025年度は、6月および7月に2回の研修を実施しました。第1回研修では、「母体急変時の初期対応—『息がしんどい』と言われたら—」をテーマに、現場を想定したシミュレーションを実施しました。参加者からは、「今後に役立ちそうであり、この経験を踏まえて頑張りたい」といった声が寄せられました。第2回研修では、「病院におけるBPSDがみられる認知症高齢者への対応」をテーマに、臨床場面を想定した実践的な内容で研修を行いました。BPSDとは、不穏や興奮などの行動・心理症状を指し、認知症高齢者の入院生活や治療の継続に大きな影響を及ぼす症状群です。参加者からは、「仕事で認知症の方に対応する際に、研修で学んだことを意識できた」といった感想が寄せられました。これらのことから、シミュレーション教育による実践的な学びを通して得られた気づきが、自己の看護実践に活かされていたと考えられます。

「看護倫理研修」では、臨床現場で直面する倫理的問題に対する基本的な考え方を学ぶとともに、グループディスカッションを通じて倫理的思考プロセスを整理する機会を提供しています。本研修は9月に実施され、31名が受講しました。参加者からは、「倫理的問題についての考え方が学べ、また問題整理や解決策を考えやすくなりました」といった感想が寄せられました。本研修を通じて、患者や家族の倫理的問題に直面した際の対応について、より深く考える契機になったと考えます。今後の看護職者の倫理的実践につながることを期待されます。

本センターでは、今後も看護職者の専門性向上を支援し、地域医療に貢献する人材育成に努めてまいります。本年報には、各事業の詳細な活動報告を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。今後も皆様からのご意見を踏まえ、より質の高い研修の提供を目指してまいります。

引き続き、本センターの活動に対するご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 沿革

## 1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日 12月 19日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認 2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改訂内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認

開催時期	内 容
2014年度 12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告 2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告 2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度 4月 19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認
12月 15日	センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告 2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認
2018年度 4月 18日	2017年度修了報告および2018年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 13日	センター教員の社会貢献活動報告および2018年度の計画の報告 2018年度生の修了判定会議、2019年度入試結果の確認と承認 2019年度教育期間の確認と承認
2019年度 4月 17日	2018年度修了報告および2019年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認
12月 12日	センター教員の社会貢献活動報告および2019年度の計画の報告 2019年度生の修了判定会議、2020年度教育期間の確認と承認
2020年度 4月 15日	2019年度修了報告 年間教育実施計画の検討および承認
2月 10日	センター教員の社会貢献活動報告および2020年度の計画の報告 2020年度生の修了判定会議、2021年度休講に関する確認と承認
2021年度 4月 15日	2020年度修了報告 復学・再履修者の年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2021年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会

開催時期	内 容
2021年度 10月 8日	特定行為研修を組み込んだ教育課程（B課程）に関する方針および教育計画について 第二回特定行為研修管理委員会
2月 10日	復学・再履修者の修了判定会議、2022年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2022年度 4月 13日	2021年度復学・再履修者修了報告 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2022年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月 25日	2022年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月 9日	2022年度生の修了判定会議、2023年度入試結果の確認と承認 2023年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2023年度 4月 12日	年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2023年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月 25日	2023年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月 7日	2023年度生の修了判定会議、2024年度入試結果の確認と承認 2024年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2024年度 4月 10日	年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2024年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
5月 9日 (臨時)	2025年度入試合格者判定基準について審議と承認
10月 25日	2024年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月 6日	2024年度生の修了判定会議、2025年度入試結果の確認と承認 2025年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会
2025年度 4月 9日	年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2025年度の計画の報告 第一回特定行為研修管理委員会
10月 30日	2025年度教育課程の進捗状況および研修生の成績について 第二回特定行為研修管理委員会
3月 5日	2025年度生の修了判定会議、2026年度入試結果の確認と承認 2026年度教育期間の確認と承認 第三回特定行為研修管理委員会

## 2) 看護キャリア開発委員会

### 2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会

### 2013年

1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

### 2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会

### 2014年

1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会
----	-----	----------------

### 2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会

### 2015年

1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

### 2015年度

4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会

### 2016年

1月	6日	第7回看護キャリア開発委員会
2月	10日	第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2017年 2017年度	2月 15日	第8回看護キャリア開発委員会

4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
2018年 2018年度	2月 16日	第7回看護キャリア開発委員会

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
7月	11日	第2回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第3回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
2019年 2019年度	2月 18日	第6回看護キャリア開発委員会

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	27日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	6日	第4回看護キャリア開発委員会
10月	4日	第5回看護キャリア開発委員会
12月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
2020年	2月 7日	第7回看護キャリア開発委員会

2020年度	4月	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	第2回看護キャリア開発委員会
	7月 22日	第3回看護キャリア開発委員会
	11月 2日	第4回看護キャリア開発委員会
2021年	1月 18日	第5回看護キャリア開発委員会
	2月 15日	第6回看護キャリア開発委員会
2021年度	4月 26日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月 25日	第2回看護キャリア開発委員会
	10月 22日	第3回看護キャリア開発委員会
2022年	1月 14日	第4回看護キャリア開発委員会
2022年度	4月 26日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月 27日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月 29日	第3回看護キャリア開発委員会
2023年	1月 17日	第4回看護キャリア開発委員会
2023年度	4月 27日	第1回看護キャリア開発委員会
	6月 1日	第2回看護キャリア開発委員会
	10月 31日	第3回看護キャリア開発委員会
2024年	1月 25日	第4回看護キャリア開発委員会
2024年度	5月 2日	第1回看護キャリア開発委員会
2025年	1月 20日	第2回看護キャリア開発委員会
	2月 19日	第3回看護キャリア開発委員会
2025年度	5月 7日	第1回看護キャリア開発委員会
	11月 21日	第2回看護キャリア開発委員会
2026年	1月 21日	第3回看護キャリア開発委員会
	2月 24日	第4回看護キャリア開発委員会

# 組織

2025年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

---

奥野 信行	京都橘大学看護教育研修センター 所長
多田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター 准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
中務 直美	京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
大西 永里子	京都橘大学看護教育研修センター 講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
大石 泰男	京都橘大学健康科学部救急救命学科 教授
餅田 敬司	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
那須ダグバ潤子	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
深山 つかさ	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
川村 晃右	京都橘大学看護学部看護学科 准教授

看護キャリア開発委員会

---

奥野 信行	京都橘大学看護教育研修センター 所長
征矢野 あや子	京都橘大学看護学部長
松本 賢哉	京都橘大学看護学部看護学科長
工藤 里香	京都橘大学看護学部看護学科 教授
中橋 苗代	京都橘大学看護学部看護学科 准教授
深山 つかさ	京都橘大学看護学部看護学科 准教授

# 認定看護師教育課程

# 認定看護師教育課程

## 1. 認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉の研修について

認定看護師教育課程〈皮膚・排泄ケア分野〉は、「特定行為研修を組み込んでいる教育課程」(B課程)に移行し、開講4年目となる。今年度は、全国の皮膚・排泄ケア認定看護師教育機関が5校となり、そのうち4校がB課程、1校が「特定行為研修を組み込んでいない教育課程」(A課程)として開講している。B課程に移行しても皮膚・排泄ケア認定看護師のニーズは高く、当学は4.2倍の受験倍率を経た30名が入学した(18期生)。研修生は関西圏のみならず全国から集まっている。

4月7日に入学式を挙行し、4月から7月はeラーニングによる共通科目380時間を学び、その間に3日間×2回の登校日を設け、共通科目の学習を深めるグループワークや科目試験を行った。7月22日から集合教育を行い、263時間の皮膚・排泄ケア分野の専門科目を学んだ。当学のB課程で修了できる特定行為区分は、創傷管理関連の「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」と「創傷に対する陰圧閉鎖療法」、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」と「脱水症状に対する輸液による補正」の4行為である。特に創傷管理関連は、確実な手技の習得と正しい判断が重要となるため、試験はOSCEや観察評価で行った。皮膚・排泄ケア分野の創傷・ストーマ・排泄に関しては実技演習と症例検討の演習時間を確保して、知識と応用力を高める学習をした。

すべての共通科目、専門科目の科目試験に全員が合格し、11月4日から150時間の認定看護師の臨地実習を開始した。規程の実習時間を終え26名が合格し、4名は次年度再実習を行うこととなった。12月15日からは特定行為実習免除者と次年度に実習を希望し

た1名を除く28名が特定行為実習を開始した。研修生が所属する自施設並びに当学の協力施設である実習施設で4行為をそれぞれ5症例以上経験し、28名全員が指導医からの合格の評価を得ることができた。

2月2日から再び集合教育を開始した。統合演習において実習の振り返りとケースレポートの作成・発表を行い、2月27日に修了試験を行った。学内演習、修了試験ともに26名が合格し3月12日に修了式を挙行した。

これにより当学の認定看護師教育課程の修了生は通算494名となった。

## 2. 認定看護師認定審査に対するフォローアップ研修

2025年3月に修了した17期生30名に対し、10月8日に行われる日本看護協会の認定審査試験に向けてフォローアップ研修を3回行った(5月、7月、9月)。今研修では、認定審査を仮定した模試に取り組み、解答と解説は30名でディスカッションを行った。これにより審査に向けて自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的とした。

2025年度の認定審査試験は、30名受験し30名が合格(合格率100%)であった。

## 3. 第9回フォローアップセミナーの開催

本課程では修了生のブラッシュアップを目的にフォローアップセミナーを2年に1回開催している。本年度は2026年3月7日「皮膚・排泄ケア認定看護師のためのがん患者の理解～がん性創傷・意思決定支援～」をテーマに企画した。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、がん患者の創傷管理に関わる機会が多い。しかし、がんの終末期に発生する創傷は予測が難しく、予防が困難である。がん性創傷は、痛みや臭気、外観の変化などにより、

患者さんの尊厳や自己像、生活にも大きな影響を及ぼす。

本セミナーでは、がん性創傷の局所アセスメントとケアの実際を学ぶとともに、患者さんが抱えやすい思いや感情を理解し、価値観を尊重した意思決定支援につなげる関わりを身につけることをねらいとした。

#### 4. 教員の専門領域の活動について

##### 【多田千和子】

1. 京都橘大学看護学部・看護学研究科に対し、下記の講義を行った。

(1)看護学部3回生

生涯健やか看護学 2コマ・生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

(2)看護学研究科

クリティカルケア看護学演習Ⅱ

「クリティカルな状況にある患者の病態や治療に伴う苦痛とその緩和」

創傷・皮膚統合性障害 2コマ・広範囲熱傷 2コマ

2. 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

(1)第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（山形市）

一般演題(示説)「在宅医療・看護/教育・指導」座長

(2)第27回日本褥瘡学会学術集会（横浜市）

(3)第43回日本ストーマ・排泄リハビリテーション

学術集会（大阪市）

3. 以下の関連学会において活動を行った。

(1)日本褥瘡学会 評議員、チーム医療推進委員会委員

(2)日本創傷・オストミー・失禁管理学会 認定看護師委員

##### 【中務直美】

1. 明治国際医療大学看護学部に対し、下記の講義を行った。

(1)看護学部4回生

選択「スキンケア」（皮膚の解剖、スキンケア、褥瘡ケア、フットケア） 8コマ

(2)看護学部2回生

基礎看護援助論Ⅲ「皮膚・創傷を管理する技術について」講義と演習 3コマ

2. 京都橘大学看護学部に対し、下記の演習を行った。

(1)看護学部3回生

生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

3. 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

(1)第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（山形市）

(2)第66回関西STOMA研究会（奈良市）

(3)第27回日本褥瘡学会学術集会（横浜市）

(4)第43回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（大阪市）

(5)第23回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会（神戸市）

【大西永里子】

1. 京都橘大学看護学部に対し、下記の演習を行った。

(1)看護学部3回生

生涯健やか看護学演習 2コマ

「排泄することに問題をかかえ生活している人を支える在宅看護（ストーマケア）」

「清潔と皮膚を保護することに問題を抱え生活している人を支える在宅看護（スキンケア・スキン-ケア）」

2. 関西ストーマリハビリテーション講習会において、実行委員として事前会議に出席し、開催期間中（2日間）は講師・運営を担当した。

3. 日本がんチーム医療研究会「高齢がん患者の在宅医療を支えるケア提供者を対象としたe-learning」において、「がん性創傷のケア」の講師を担当した。

4. 社会福祉法人大阪暁明館大阪暁明館病院看護部に対し、下記の講義を行った。

(1)看護職員（ラダーⅢ～Ⅴ：経験年数3年以上）

「褥瘡管理」（褥瘡の基礎、リスクアセスメント、褥瘡の評価、褥瘡管理の実際）

(2)看護職員（ラダーⅢ～Ⅴ：経験年数3年以上）

「褥瘡管理」（褥瘡予防、スキン-ケア、MDRPU）

(3)看護職員（ラダーⅡ：経験年数2年）

「褥瘡管理」（ポジショニング演習）

5. 社会福祉法人大阪暁明館大阪暁明館病院ストーマ外来において、患者・スタッフ指導を行った（月2、3回）。

6. 大阪中央病院ストーマ外来において、患者・スタッフ指導を行った（月1回）。

7. 以下の関連学会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。

(1)第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学

術集会（山形市）

(2)第27回日本褥瘡学会学術集会（横浜市）

(3)第43回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会（大阪市）

(4)第23回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会（神戸市）

(5)第11回日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会学術集会（鹿児島市）

看護教育研修センター 准教授

皮膚・排泄ケア認定看護師 多田 千和子

## 看護キャリア開発事業

■2025年度 たちばなSIM. 16

■2025年度 看護倫理研修 19

## ■2025年度 たちばなSIM.

京都橋大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM.」を開催している。

今年度は「こんなときはどう対応する？—BPSDが見られる認知症高齢者への対応—」として、初めて高齢者を対象としたシミュレーションを加えて企画、実施した。例年通りオープンキャンパスと同日の開催となり、来場した高校生、そして保護者の方も、興味深く見学していた。そして、心肺蘇生法など、参加者から手ほどきを受けながら、実践を行った。

**開催1**：2025年6月8日(日)「母体急変の初期対応～息がしんどいって言われたら～」とし、羊水塞栓の症例のシミュレーションを実施した(表1)。破水を主訴として入院してきた産婦の異変に気づいた助産師が、適切に初期対応でき、チームで対応し、3次救急病院へ搬送するまでの行動を問われるシミュレーションであった。今年度はこの3月に卒業した助産師の参加であったため、羊水塞栓に気づくまでに時間がかかった。しかし、大学で学んだシミュレ

ーションの取り組みを活かし、新人助産師としてのアセスメントを深めていくことができた。実際の急変の現場では、時間もなく、緊張も高いため落ち着いて考えることができない。そのため母校の施設、設備を使つての様々な状況のシミュレーションを、今後も企画していきたい。

**開催2**：7月20日(日)「こんなときはどう対応する？—BPSDが見られる認知症高齢者への対応—」を開催した。7月という時期は、入職後3か月で少し看護業務にも慣れてきた頃と思われるものの、忙しさに追われる毎日を過ごしている状況である。また、高齢期には認知症を抱える高齢者も多いため、認知症高齢者看護に焦点を当てることの意味も大きいと考え、臨床現場で多忙な中でも本学で学んだ「人によりそう看護」を思い出してもらえよう、行動・心理症状(BPSD)が見られる認知症高齢者への看護場面を設定した。老年看護領域の教員とシミュレーション教育に精通する教員が担当し、研修目標を踏まえて認知症高齢者の設定やデブリーフィングの視点について検討し準備をした。

表1 2025年6月8日(日) 開催「母体急変の初期対応～息がしんどいって言われたら～」

テーマ	羊水塞栓
担当者	工藤・野島・畑野・下村・ラブロウ
調整役	阿部
受講人数	2名
プログラム	アイスブレイキング 講義 京都プロトコール BLSの基本 BLS実践 事例 分娩進行中に咳がではじめた妊婦 シミュレーション&デブリーフィング 3回 まとめ

プログラムの概要について表2に示す。20分程度の講義のあと、参加者は2グループに分かれシミュレーションを実施した。

シミュレーション・コモンズ環境を活かし、病棟風景の投影、連絡用のPHSの準備や電子カルテの設定、点滴や酸素吸入の物品の準備なども含め模擬患者の設定も詳細に検討し、リアリティーをもって病床環境や患者を再現できるように工夫した(表2)。

最初に看護師役を率先して実施してくれたのは卒後3年目の参加者であった。認知機能の低下のためそれぞれ落ち着きのない対象者にも視線を合わせ、その背景にも意識を向けながら落ち着いて対応してくれた。

デブリーフィングでは、観察者が様々な良い点を発表してくれたことが印象的で、強みを捉える視点が培われていることを実感した。また、課題についても出てくるなかで実施者は「確かに」と新たな気付きを得ていた。

2回目の実施では、先輩の実施を見学した卒後1年目の参加者が実施した。自信なさげにしていたもの

の、実際はとても安心感のある対応ができ、対象の認知症高齢者も落ち着かれ、良い状況でシミュレーションを終えることができていた。実施者からは「環境が整ったシミュレーションだから動けたが、臨床現場では混乱しそう」と「臨床で起こり得る場面」を具体的にイメージした戸惑いも吐露していた。一度のシミュレーションで自信をつけることは難しいが、今回の成功体験を糧に現場への応用につなげてもらいたい。教員としては、卒後4カ月にもかかわらず、1年目の参加者が人によりそう看護を臨床でも実践してくれているであろうことが垣間見られ、非常に嬉しく頼もしく感じた。

シミュレーション研修終了後には参加者同士の交流の機会として懇親会も開催した。参加者のゼミ教員も合流し、和気藹々とした雰囲気の中で楽しいひとときとなった。

参加者の感想として、「久しぶりに基本に立ち返ることができました。今日仕事中に認知症の人の対応をする時に、挨拶など少し話してからバイタルを測るなど教えてもらったことを意識できました！」

表2 2025年7月20日(日)「こんなときはどう対応する?—BPSDが見られる認知症高齢者への対応—」

テーマ	認知症高齢者看護
担当者	深山・野島・工藤・十倉・堀・田茂井
調整役	阿部
受講人数	6名
プログラム	アイスブレイキング 講義(認知症高齢者との基本的コミュニケーション) 事例紹介 教育用電子カルテからの情報収集 シミュレーション(1回目)(3名×2グループ) デブリーフィング シミュレーション(2回目)(6名全員) デブリーフィング まとめ BPSDが見られる認知症高齢者によりそったコミュニケーション

とたちばなSIMでの経験を実践に活かせたというのが聞かれた。また、「講義を受けに行く形だと思っていましたが和気藹々とできてすごく良い時間でした」と講義だけでなくシミュレーション形式で実践できたことも好評であった。

たちばなSIMの狙いの一つは卒業生のスキルアップを目指すことである。ただそれだけではなく、卒業生同士、卒業生と教員のつながりを深めるとともに、同窓会的な要素も取り入れ、継続的なキャリアフォローアップも目指しているところである。

この点に関してある参加者は感想に「研修自体も学びになりましたが、それ以上に大学に帰るきっかけがあって、困った時に話せる帰れる居場所があると感じる事が出来、今後の自分にとっての支えになると思えました」と記載してくれた。私、深山の新人時代を思い返してみても看護師として働き始めると業務に追われ精一杯の毎日であった。特に1年目や経験の浅いうちは覚えることに必死で看護を振り返る機会も十分なく、失敗も経験する中で悩みや不安をたくさん抱えやすい。そんなときにはたちばなSIMに参加して、懐かしい同級生や先輩後輩、教員と交流し心のエネルギー補給をしてほしい。今回の参加者のように、本学を居場所と思ってもらえること、前向きな気持ちで臨床の場に戻ってもらえることが、教員一同この上ない喜びである。

今後の課題としては、高齢化の進行に伴い認知症高齢者も増加しており、あらゆる場面で認知症を抱えて医療や介護を必要とする対象者と出会うことも多い。そして、認知症とともに生きる高齢者が尊厳を保ち、持てる力を発揮しながら生活するために、看護職者が果たす役割は大きい。病院に限らず、様々な場面における認知症看護実践に関するシミュレーション教育を今後も検討していきたいと考える。

看護学部 准教授 深山つかさ  
看護学部 教授 工藤 里香



## ■2025年度 看護倫理研修

### 看護教育研修センター「2025年度活動報告集」

京都橘大学看護学部では、2018年度より看護職者を対象とした「看護倫理研修」を開催している。今年度は、2025年9月13日（土）に「臨床で直面する倫理的課題にどう向き合うか？—事例を通して考えよう—」をテーマとし、研修会を実施した。研修会は、さまざまな人と、ゆっくり、率直に意見交換ができる場になるよう企画した。

#### 1. 看護倫理研修会の概要

36名の申込みがあったが、キャンセルがあり参加

者は31名であった（うち7名は本学大学院生）。参加者はベテラン層が多く、1/3は役職者であった（詳細は表2～5参照）。

研修参加の動機は、「倫理委員となったが、知識が少なく勉強したいと思った」「新人看護師の講義を担当しているので知見を広めたい」「倫理カンファレンスでのテーマ設定や導き方がわからないから」といった、倫理研修会の運営者としてヒントを得ることを目的としたもの、「倫理について学びたかった」「倫理的なことで悩むことがあったから」といった自己研鑽を目的としたもの、さらに「院内のラダー研修の対象であったため」「母校での研修のため参

表1 スケジュール

時間	内容
10:30～10:35 (5分)	オリエンテーション
10:35～12:05 (90分)	【講義】 倫理に関する基本的知識、思考プロセスについて講義
12:05～12:50 (45分)	休憩
12:50～13:00 (15分)	事例検討のすすめ方、グループワークと発表方法について
13:00～14:40(100分)	【グループディスカッション】 ・自己紹介、役割分担（司会、書記、発表者等） ・事例の決定・共有 ・事例について分析シートを用いて整理しながら、倫理的な看護実践について検討する。
14:40～14:50 (10分)	休憩
14:50～15:40 (50分)	発表
15:40～15:55 (15分)	ファシリテーターからのコメント
15:55～16:15 (20分)	研修のまとめ 修了証授与・アンケート

表2 参加者の概要 (N=28)

年齢	20代：3名、30代：10名、40代：11名、50代：4名
看護職経験年数	5年未満：1名、5～10年：4名、11～15年：7名、16～20年：10名、21年～25年：1名、26年以上：5名
職場での役職	スタッフ：18名、副師長・主任：4名、師長：6名

表3 研修会を知ったきっかけ

チラシ	15名
本学教員からの紹介	7名
その他	所属施設からの案内 5名 友人からの紹介 1名 HP 2名

表4 看護倫理に関する研修会等への参加経験  
(複数回答可)

ある	14名(所属施設：5名、看護協会：8名、認定看護師教育課程・大学院：2名)
ない	14名

表5 研修会(部署内の学習会等含む)の企画者か

はい	5名
いいえ	9名

加しやすいと思ったから」等であった。

研修会の前半では、看護倫理を学ぶ意義や倫理における歴史的経緯、医療における倫理原則、看護者の倫理綱領など、看護倫理に関する基本的知識に関する講義を行った。後半は、各グループで4ステップモデルを用いて参加者が持参した事例について整理し、看護実践のあり方について意見交換を行った。取り上げられた事例は、「終末期患者の最期の療養場所の選択」、「終末期がん患者へのインフォームド Consent」「認知機能低下のある患者への胃瘻造設の是非」「急変時CPRに関する患者と家族の意見対立」「20代透析患者への関わり」等であった。

運営上の工夫としては、持参した事例をできるだけ検討できるように1グループ3名の少人数制とし、さまざまな視点で意見交換できるように同じ施設・看護師経験年数・職位が重ならないようにグルーピングをした。さらに、2名のファシリテーターがラウンドし、グループワークが円滑に進むようサポート

を行った。参加者同士、初対面であるものの、時間とともに和やかにディスカッションが進み、自身の施設の取り組みや対策等を意見交換している場面も見られた。また、昨年度までは開催時間を13時から17時としていた。しかし、研修時間の延長やバスの運行がある時間帯に終了してほしいという参加者のニーズに応え、今年度は時間を1時間延長し、開催時間を10時30分から16時15分に変更した。時間設定の変更については、肯定的な意見が見られた(詳細はアンケート結果参照)。

## 2. アンケート結果(一部抜粋)

- 1) 本日の研修を終えての今の思い、これから実践してみたいこと
  - ・固定概念にとらわれていた。
  - ・意外とゆっくり時間をかけて考えると面白い
  - ・患者さん本人の思いをまず確認すること、それぞれの立場の意見、方向性を決めることが大切だと感じた
  - ・本人の同意を得ることが困難な場合、本人の立場に立って家族やスタッフが倫理面を考える大切さを改めて学ぶことができた
  - ・皆で分析してみたい
  - ・もやもやした時にスタッフ間で話し合いの機会を待とうと思う
  - ・気軽に話し合いをするみたいな感じでも話し合うことは意義がありそうなので、実践していきたい
  - ・色々な事例をきいて参考になった。難しく考えるのではなく、今ある問題を整理しながらスタッフへ倫理カンファレンスの開催し、もやもやを解決していきたい
  - ・倫理カンファレンスが苦手と思っているスタッフも積極的に取り組めるようにしてあげたい

- ・考え方が学べ、また問題整理や解決策を考えやすくなった
  - ・倫理原則にのっとり考え、チームで話し合いをする事が大切だなと思った
  - ・困った時は倫理原則、ガイドラインに戻って今の自分の行動はどうか考えていきたい
  - ・感情論で話すのではなく、倫理原則に基づいてチームで話し合うことが大切だと思った。緩和ケアチームのリンクナースにも伝えていきたい
  - ・4ステップ法が考えやすかったので病棟で共有したい
  - ・今ある実態を理解するのに四分割法を活用し、4ステップ分析法に進めていきたい
  - ・医師にも根拠を持って相談できる看護師になりたい
  - ・一つ一つの言葉はまだ難しいが、理解できた部分もあり、普段している看護の延長であることは理解できた。怯まずに活躍できたらと思う
- 2) 倫理的な課題や問題について、もっと考えたいこと、話し合ってみたいこと
- ・意思決定支援における看護師の役割
  - ・身体拘束
  - ・DNAR
- 3) 倫理研修会等を自施設で企画する上で困っている事
- ・時間が取れない
  - ・ファシリテーターをする際、進め方等についてこれで良いのか悩む
  - ・日常業務に潜む倫理問題の抽出方法と解決方法
- 4) 自由記述
- ・具体例も多く、とてもわかりやすかった
  - ・講義、グループワークで沢山の学びを得ることができ、現場での看護に活かしたい
  - ・言葉の意味など、わかりやすく説明していただ

けた。久しぶりに集中して勉強できた。長時間であったが、最後まで集中して過ごすことができた

- ・他の領域の問題に触れることができ、勉強になった
- ・他の病院の方との情報共有をもっとしてみたい
- ・他の病院の情報を知ることができ、また色々な症例を抱えて、皆さん日々奮闘していることができた。学びは職場に持ち帰り、共有したい
- ・和やかな雰囲気、色々な症例を聴くことができ、色々な病院の状況も知ることができ、有意義な時間であった
- ・事例検討会では、私の事例でしたが、積極的な意見や先生のアドバイスをいただき参考になった
- ・他病院の方と話が出来て楽しかった。100分は思っていたより短かった
- ・ディスカッション100分が一瞬に感じるくらい濃い話し合いができた
- ・少人数でグループワークできて意見交換できてよかった。病棟に学んだことを持ち帰りたい
- ・3~4人の少人数でのグループワークだったので満遍なく意見が言えてよかった。時間設定は適切だったように思う
- ・休憩時間はもう少しあっても良い
- ・ご飯を出してもらおうか休憩時間を少し長くしてもらえるとありがたい。コンビニも空いてないとなると移動で時間がとられるのでバタバタであった

### 3. 評価と今後の展望

参加者の発言やアンケート結果からは、本研修会が日々の看護実践における悩みを共有し、多様な視点に気づく機会となっていたことがうかがえる。ま

た、自身の看護実践を振り返る貴重な時間にもなっていたと考えられる。

特に、日々の実践の中で倫理的な課題に気づいていながらも、その解決方法が分からず悩んでいたという声が多く見受けられた。アンケートには、「ガイドラインを活用していきたい」「4ステップで考えてみたい」といった記述もあり、参加者の中で方法論への理解が深まったことがうかがえる。

さらに、参加者の多くはベテランの看護師であり、倫理研修会の企画・運営に携わる立場の方も含まれていた。そのため、本研修会は実務に直結したニーズにも応える内容であったといえる。方法論を学んだことで、「病棟に持ち帰って皆で検討したい」「スタッフに勧めたい」といったように、学びを積極的に職場へ還元しようとする意識の高まりも見られ

た。

また、「さまざまな意見が聞けた」「他施設の方との意見交換がとても勉強になった」「同じ悩みを抱えていることがわかり、安心した」といった声もあり、異なる施設間での意見交換が大きな意義を持っていたことが明らかとなった。こうした点からも、本研修会はジレンマや葛藤を抱える看護職をエンパワーする、有意義な企画であったと評価できる。

一方で、運営面では課題も見られた。大学の学休期間中の開催であったため、食堂やコンビニが営業しておらず、昼食や休憩時間に関する不便さを指摘する意見もあった。今後は、大学が不便な場所に立地していることも踏まえ、参加者のニーズにより応えられるよう、改善策を引き続き検討していきたい。

看護学部 准教授 中橋 苗代



講義



ディスカッション①



修了証授与

## 京都橘大学看護教育研修センター 年報2025

発行：2026年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel：075-574-4325

E-mail：aca-nm@tachibana-u.ac.jp

URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/